

題字・佐々木正美
挿絵・竹蓋 伸六



発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部 ホームページ：<http://www7e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内 TEL 043-227-8557

平成 25 年度 第 2 回 連続セミナー

第 2 回 連続セミナー 『テンプルグランディン～自閉症とともに～』 上映会

解説： 横浜市東部地域療育センター 安倍陽子氏

第 2 回連続セミナーは、「テンプルグランディン～自閉症とともに～」という、2010 年 2 月にエミー賞を受賞した、アメリカのテレビ映画の上映会を行いました。上映に先立ち、本研究会のスーパーバイザー、横浜市東部地域療育センターの安倍陽子先生に、テンプルグランディン氏や映画の内容について解説していただきました。

テンプルグランディン氏は、コロラド州立大学大学教授、動物学者です。彼女の設計した動物処理用の施設は家畜の恐怖を取り除くので、良質な食肉の生産が可能になると、全米のみならず、日本を含む世界各地で実用されています。また、彼女が開発した神経抑制作用の締め付け機も各地の児童施設で活用されています。さらに、彼女が自らの障がいについて語った『我、自閉症に生まれて』等の著書や講演は、自閉症の人への理解を広め、実際に自閉症の障がいに苦しむ人々やその家族に大きな希望をもたらしてきました。

映画では、まだまだ自閉症の知識や理解の乏しかった時代に生まれ育ったテンプルが、母親の献身的な愛情と励ましに支えられ、アン伯母さんや大学の恩師カーロック先生をはじめ、周囲の人々の理解ある助言に導かれながら、自らの人生と夢を切り開いていく姿が、大らかなユーモアを交えながら描かれています。物語は、寄宿学校を卒業したテンプルが、夏休みを伯母の牧場で過ごすところから始まります。それまでの出来事をフラッシュバックで織り込みながら、大学生活の困難を通して社会で生きていく方法を模索していく姿、畜産業への情熱を育む中で、画期的な食肉処理用施設の実現していく様子が描かれています。大学で異常者扱いをされたり、畜産業界で女性という理由だけで手酷い扱いを受けたり…。だが、テンプルは挫けないし諦めない。「必要なのは新しい世界へ続くドアを開けるための勇気」「自閉症だからこそ、人と違う支援で世界を見ることが出来る」そんなポジティブな発想と行動力をもつ、テンプルグランディンという女性の魅力がそのままに伝わってくる映画でした。

あらゆるものを ビジュアルで理解して考える 視覚思考者であるテンプルの見る世界、感じる世界を視聴者も体験することができるように、映画では、CG 等を駆使した様々な映像処理が施されています。そのため、画面の展開に驚いたり、内容が分かりづらくなったりすることがあるかも知れません。今回は、セミナーとしての上映ということもあり、安倍先生に映画についてのレクチャーをしていただきました。映画を前半と後半にわけて、登場人物や見所を解説していただいてから本編を観たので、物語の内容に混乱することなく、テンプルの世界を存分に体験することができたのではないかと思います。テンプルの著書のタイトルにもなっている、母親が彼女を紹介するときの「彼女は違っているが、劣っているのではない」ということば。そして、映画の中でのテンプル自身が言った「泣いていません。いつも自閉症です。」ということばが、たいへん印象的でした。彼女の半生を描いた物語に浸り、思わず涙する場面もあったのではないのでしょうか。

受講者の感想をご紹介します

自閉症の方の見える世界、考え方など
知ることができ参考になりました。解説が
あることで、テンプルさんの特性等を気に
しながら映画を観ることができました。

いかに理解者が必要かを再確
認した。自分も良き理解者に
なり役に立てればと思った。
「ルール、マナーを身につけ
る」ことの重要さを思った。

～夏季：出前トレセミ～

今年度は、会場や日程の都合で、千葉T研主催のトレーニングセミナーを行いませんでしたが、代わりに県内の特別支援学校を会場として、研修会を行いました。この研修会は、地域密着型であるので、①受講者にとって、距離的にも金銭的にも参加しやすい。②協力児者にも距離的、心理的に負担が少ない。③協力児者の生活圏で行うことによって、支援者が複数参加することができ、その後の支援や他の方の支援に般化しやすい。などの利点があったように思います。

主催は、各学校や地域の自閉症研究会でしたが、T研の所有する教材や人的なネットワークを活用して、有意義な研修会となりました。今後は、千葉TEACCHプログラム研究会の正式な支援事業とすることができれば、さらに発展できるものと期待しています。

IN 八日市場特別支援学校 8月22日・23日

八日市場特別支援学校では、これまでも夏季休業中に、自立課題の研修会を行ってきました。今年度は自立課題だけでなく、物理的構造化からコミュニケーションの支援まで、トレーニングセミナーに準じた内容で2日間の研修会を行いました。研修会には、校内から29名、県内の特別支援学校、学区内の施設や小中学校などから15名の参加がありました。




<主な日程>

1日目	2日目	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義Ⅰ 「自閉症の特性と適切な支援」 ・ 講義Ⅱ 「自立課題の設定」 ・ グループミーティング、協力児の紹介 ・ 演習①評価（PEP-RやTTAPの一部を使用） ・ 演習②物理的構造化、スケジュールの作成 ・ 自立課題、一対一の学習の見学 ・ 演習③自立課題の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他グループ見学 ・ 演習④自立課題の評価 ・ 演習⑤コミュニケーションの評価 ・ 演習⑥自立課題の再構造化 コミュニケーション支援準備 ・ 全体ミーティング ・ 講義Ⅲ 「明日からの支援に向けて」 	} 繰り返す

<各グループの様子>

Aグループ 協力児 (小学部1年) リーダー; 打瀬小、島尾さん 安房特支、岡村さん



スケジュール

本人が分かっているイラストを使い、3～4の活動を提示したところ、いろいろなカードに手が伸びてしまいました。そこで、1こ提示にしたところ、一人で次の活動場所に移動できるようになりました。2学期からも引き続き活用し、スケジュールで確認しながら、自立的に行動しています。




ワークシステムの設置場所を横から前に変更。取りやすくなりました。



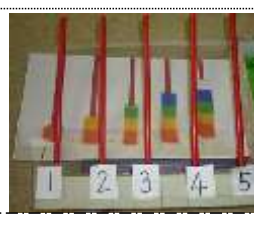
ワークシステムの位置を変えただけでずっとスムーズに課題が進められるようになり、驚きました。Aさんに合わせて課題を何度も作り直したことが、とても勉強になりました。(受講生)

自立課題「1～5までの数」の再構造化Teke 3


Aグループは、お昼も食わずに何度も再構造化。「あーでもない。こーでもない。」最後は、シンプルisベストとなりました。



型はめ式。入れた後に遊んでしまう。



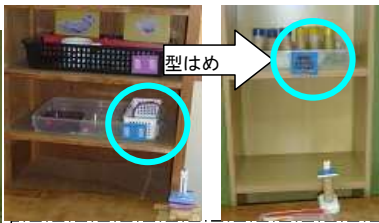
遊ばないように棒に挿すことにした。絵の指示書も付けて分かりやすくなったが、ブロックの色に興味に向いてしまいスムーズにいかなかった。



棒を斜めにしてスムーズにブロックが入るようにした。色も、シンプルに一色にしたから一人でできるようになった。

Bグループ 協力児（小学部6年）

リーダー；東金特支、山中さん



実物1個提示のスケジュール

ワークシステムをマジックテープで貼るタイプの色マッチングから型はめに変更

<ワークシステム>

Bさんは、課題を棚に置くと、好きな物から取るので、トレイを重ねていました。しかし、中身によっては、重ねにくい物もありました。そこで、マッチングのワークシステムを考えることになりました。マッチングするカードを上から下に並べても、好きなものから取るので、上からしか取れないように、カードを棒に挿して重ねることにしました。薄いカードを一枚だけ取るのは難しいので、厚みをつけてみましたが、厚みがあっても取りづらかったので、さらにカードとカードの間に隙間ができるようにしました。しかし、マジックテープを付けたりはがしたり遊んでしまうことがありました。最終的には、リーダーの助言により、『型はめ』で作ることになりました。

<Bさんの担任より、後日談>

研修会で作成したワークシステムを2学期当初より使用しています。マッチングしたいという気持ちが、しっかりあるので『型はめ』のワークシステムは、とてもよかったです。マッチングしてから、課題を行うという手続きを学習するため、課題1個から始めました。

1個やったら休憩して、3セット行っています。

自立課題



Cグループ 協力者（中学部2年）

リーダー；千葉県発達障害者支援センター、綱岡さん



T T A Pなどを使っての評価



スケジュール



ワークシステム



自立課題



コミュニケーションの支援

<コミュニケーションの支援>

担任からコミュニケーションの表出が難しいとの話があり、研修会の中では、おやつ場面を設定して、コミュニケーションの評価や支援を行いました。始めはどうすればよいのか分からず困っていたのですが、1対1の学習の中で不足している物をカードで要求する練習を行ったところ、要求できるようになりました。次のおやつ場面でも、見事、カードを使って要求することができました。

<感想>

新しい課題がなかなか作れなかったのですが、余暇や作業的な課題など、今までになかった課題を作ることができました。おやつ場面で、自分からスムーズにカードを出し、要求できるようになり驚きました。

<出前トレセミ こぼれ話>

始めに作ったクラスルームの冷房が効かず、何と、一日目の研修が終了した後に、受講生がみんな残り、物理的構造化を別の教室でやり直しました。疲れた身体にむち打って運べる物は運んだものの、使える備品は全部同じではなく、教室の形も全く違って！！でも、すごいですねえ。一回目の学習が生きて、どのグループもさっさと、しかも一回目より良い形で、物理的構造化ができました。*2回やるっていいかも・・・。

あさひ自閉症研究会 自立課題作成セミナー 7月23日 18:30~21:00

あさひ自閉症協会が主催している連続セミナーの一つとして、八日市場特別支援学校を会場に自立課題作成のセミナーが行われました。施設職員、病院のSTさん、PTさん、ケースワーカーなど幅広い職業の方々、23名が参加しました。講義やグループリーダーは、T研のスタッフが行いました。久しぶりに、千葉TEACH研設立当初のような、活気溢れる研修会でした。

自立課題作製研修会 IN 東金特別支援学校

8月1日(木)10時から15時(午前;講話2時間,午後;演習2時間),研修会を行いました。参加者は,本校職員2名,近隣特別支援学校職員2名,小中学校職員11名の15名でした。人数は少なかったのですが,逆に『こじんまり』とした中で研修会ができたので,参加された先生方から「落ち着いた中で和やかに研修が受けられて良かった」という感想が聞かれました。

午前中の講話では「自閉症の特性について」を中心に,「構造化」や「ワークシステム」,「自立課題の意義や実践例の紹介」の話があり,午後は講話を受けて自立課題作製の演習が行われました。今回の研修は,小グループに分かれて,普段受け持っているお子さんたちをイメージして自立課題を作製する構成にしました。自立課題を作製する上で必要な「視覚的指示」「視覚的明瞭化」「視覚的組織化」などの配慮点について,お互いに意見を出し合いながら自立課題を作製することができました。

「自立課題の必要性がわかった。」「夏休みに作製してみたい。」「2学期からの実践に自信がもてる研修会だった。」など,研修会は好評でした。これからも一緒に勉強していきましょう。

自立課題作製研修会 IN 市立船橋特別支援学校

8月7日(水)10時から16時30分 金堀校舎(中高等部)で行いました。午前中は「自閉症の障がい特性と構造化」「自立課題の作製と評価」について菅谷がお話ししました。その後,28名の参加者(本校職員25名,県立特別支援学校1名,小学校2名)を4グループに分けて,評価と自立課題の作製の実習を行いました。4名の児童が協力児として参加してくれたこと,TEACCH研のスタッフ4名(田中さん,島尾さん,岡村さん,縄岡さん)がボランティアでグループごとの講師やアシスタントを引き受けてくれたことで,とても充実した研修会になりました。

参加者はグループ毎に評価を行い,それを基に教材を選び,一人で出来るように構造化して課題を作り,実際に協力児に行ってもらいました。実際に子どもが目の前で作った課題を行うことで,一人で出来る課題として適切であったのか,構造化できていたのか等がはっきり分かり,よかったという感想が多く聞かれました。どのグループも再構造化まで取り組めるようにすると更によかったというのが,企画した側の反省です。

《お詫び》12月1日(日)に予定しておりました『自閉症のある子どもの評価(PEP-R)』研修会ですが,講師の都合により中止させていただきます。申し訳ございません。

平成25年度 TEACCHプログラム研究会 第4回連続セミナーのお知らせ

日時:12月21日(土)13:30~16:30(受付開始13:00)

内容:「成人期の支援」(仮題)

講師:大澤隆則氏(社会福祉法人はるにれの里 石狩市障がい者総合相談支援センター「ぷろっぷ」所長)

会場:きぼーる内 千葉市ビジネスセンター会議室1・2・3

〈編集後記〉先日の台風26号は,過去10年間で最も勢力が強かったとのこと。皆さんの自宅や職場は大丈夫でしたか?今回の広報「森」は第2回連続セミナーと特別支援学校で行われた『出前トレセミや自立課題作製研修会』を特集しました。研修会ではたくさんの先生や施設の支援員さん等と一緒に子どもの特性の見取り方や課題の作製の仕方を学ぶことができました。研修会で学んだことがこの秋に実を結んでいますように…,そして,この取り組みが広がりさらに多くの方に参加していただけますようにと願っています。

(金坂)